

若手経営者への意見聴取結果

①強み

- ものづくり産業、IT産業の集積
- 高等教育機関の集積し、学生が多く、若い世代が集まりやすい土地柄
- デジタル化に向けた資金・技術・人材の総合パッケージ（産学官連携の人材育成プログラムなど）

②弱み

- あらゆる産業でデジタル化の遅れ（業種・規模・企業間で取組レベルにバラつき）
- 事業改革や他社連携に対し経営層の意識が薄い
- ハイレベルなデジタル化を進めるための実例に乏しく、情報も限られている

③機会

- 現在の動向：**
- 第4次産業革命による技術革新の加速、デジタル技術を活用した地域課題解決や、DXが社会全体で加速し、あらゆる産業でデジタル化が前提となっていく流れ
- 未来予測：**
- 情報通信技術が発達、自動化等によるライフスタイルの変化、働き方やビジネススタイルの変革が進む
 - 人口減少が進み、軽作業の自動化が進展

④脅威

- 現在の動向**
- 将来にわたりデジタル人材が不足（2030年IT人材需給ギャップ：▲16万～▲79万人）
 - 技術革新、グローバルな競争の中で、戦略的にDXを進める他社との競争激化
- 未来予測：**
- 世代間のデジタルデバイスが深刻化
 - デジタルマーケティング等で、個々の志向が反映された商品・サービス増加（販売手法の多様化）

①強み×③機会

- 生産性の大幅な向上や販売促進においてデジタル化を徹底的にする必要がある。海外大手ユーザー販促において、**生地のデータ化**などデジタル化したほうが今後優位性が増す。**繊維産地間で情報共有できるデジタルプラットフォーム**があれば面白い。（繊維）
- 機械業界の共通言語である**図面のデジタル化**、すなわち**3D図面による調達の普及**。また、そのための図面の書き方のルール統一化。上記を検討する委員会の発足（機械）
- インダストリー4.0の石川県版**の検討（機械）
- 国内をはじめ世界で戦える**石川発のDXプラットフォームの立上りと伴走型支援**（IT）
- 自治体のサイズが実証実験しやすい規模感であることと魅力的な文化資産がある地域であることを活かして、**地方創生と先進テクノロジーを掛け合わせた本格的なデジタルプロジェクト**を立ち上げ、推進する。大きなデジタルプロジェクトを推進することで、そこにデジタル人材・企業が集まることを狙う。（IT）
- 売買が発生する小売に疎結合できるデジタル基盤を構築し、**リアルタイムの消費に関するデータ把握と活用**を行う（IT）
- 各企業の強みを活かせる企業間連携を行うことで事業領域が広がり企業価値向上に繋がるのではないかと（IT）
- 金沢城跡地における**金沢城のAR化**（機械）

②弱み×③機会

- 中小企業のデジタル人材が不足する中、**専属のデジタル人材を採用した場合の大きな人件費補助**があれば進展しやすい。（繊維）
- 開発者ではなく、**企業におけるデジタル化の企画ができる人材の育成**（IT）
- 子供は学校でプログラミングを学ぶ機会があるが、そんな彼らに入社してほしい小規模企業で働く大人はその知識がない。**働く大人にも基本的なデジタルスキルを学ぶ機会**がたくさんあると有難いです。（機械）
- 中小企業は**経営者がトップに立ってデジタルを活用**して様々なムダを排除していけばもっと生産性が向上すると思う。県が中心になって経営課題を解決するデジタル活用の事例を5分ほどの動画にまとめていつでも見られるように欲しい。（機械）
- 事業と直結できないデジタル教育をしても意味はない。**事業化につながるデジタル教育**を念頭に置いてほしい。（繊維）
- 労働人口減の対応擦る為、無人化や省力化投資を進める必要があるが、**システムインテグレータが少なく、費用も高額**。MC×2台+ロボットの移設だけでも数百万円必要（機械）
- 県内小規模事業者への発注が多い県内企業を中心に**発注データの仕様を統一**することで中小零細企業でも生産管理システム導入のメリットが享受しやすい環境を構築できる。（機械）
- 人の手作業が付加価値につながるような食品分野では、デジタル化すべき業務の棚卸を行い、**デジタル化で効率化を図る部分と、人的リソースを集中し付加価値を高める部分を明確化**することが必要（食品）

①強み×④脅威

- 石川県内企業の社内でデジタル人材へのリスキリングを促進するため、**リスキリングに必要な経費（研修プログラム）の補助**をする。（IT）
- デジタル人材を育成する**スマートSEの継続と更なる充実**、並びに自動化についても、**ロボット（自動化）人材を育成**するための同様のプログラムがあると良いと考えます。（機械）
- 世代間のデジタルデバイス対策（特に**高齢者**）として、**県内学生（高校・短大・大学）と地域組織をつなぐ仕掛け**を作ってはどうか（IT）
- デジタルを活用した先進的事例の研究と産業と連携した実証実験化とその支援（IT）

②弱み×④脅威

- デジタル人材**は社内に置きたいが**人件費が高すぎる**。プログラムなどは**遠隔などでコストが安い海外人材の活用**をすべき。**デジタル教育を徹底したいが社内に対応できない**現状がある。社内デジタル人材不足により**EC販売が伸びせない**課題が大きい（繊維）
- デジタル補助金等が充実しているが必要だと感じている人しか活用できないため、必要性を感じていない人にアプローチしていただきたい。**全体として取り組んでいただかなければ効率化にはつながらない**。（食品）
- デジタル化を進めて行くなかで、**セキュリティー強化**を同時進行させなければいけないが、日々変化するウィルスに対し、**対応し続ける事は難しく、対応費用も課題**（機械）
- デジタルインフラを維持整備するのに費用がかかりすぎる**（機械）
- サイバーセキュリティー対策を個社で行うには限界**がある（機械）
- 東京発ベンチャーの**プラットフォーム**によって、**商流の上流を抑えられ、製造業や印刷業などのエコシステムが破壊**されようとしている。これに対抗できる中小企業は少ないのではないかと。打ち手の具体策は思い浮かばず。（機械）
- リスクを知らずに、便利だからとデジタル化を進めることは怖い**。（機械）
- セキュリティー対策**、ソフトやハードの更新などコスト増。セキュリティー対策は100%の安心はない。（機械）

何も策を講じない場合

- デジタル化の進展により、デジタル人材の獲得競争が深刻化
- 機械、自動車の電動化や、大手プラットフォームとの競争により、変化に対応できない企業に**明暗**
- デジタル、AIによる自動化が加速し、デジタルデバイスも進む結果、**商売から人情味が消え去る恐れ**（IT）

10年後の想定

- デジタル技術によって買物・医療など生活の利便性が向上し、需要予測・最適化等による新たなビジネスの創出や、DXによるビジネススタイルが変化する
- 自動化されないことの価値がある**（既にそうかもしれませんが、、）（機械）

①強み

- ・炭素繊維等複合材料産業の集積、I C Cや東大先端研、産総研など産学官の連携体制
- ・石川県は、2022年を「いしかわカーボンニュートラル推進元年」として取組強化
- ・産業・運輸でのCO₂排出削減率は全国を下回る
- ・**世界に通用する北陸産地合繊維のオリジナル素材**の開発（繊維）

②弱み

- ・事業者の半数がカーボンニュートラルに関する取組予定なしと回答（知識・認識不足が課題）
- ・小規模・中小企業は「環境に優しいが高価格」は効果が見えないと取組めない
- ・ポリエステル生地を軸としているので**一過性**になりやすい（繊維）

③機会

現在の動向：

- ・経産省「グリーン成長戦略」で、14の重要分野を定め、この分野の成長に投資集中
- ・2016年パリ協定を機に国際社会で脱炭素化が加速。環境配慮に対するニーズ高まり

未来予測：

- ・脱炭素化の流れが加速し、再エネ供給が確立、資源循環の取組拡大、環境適応型の住居・工場（ZEH・ZEB）の普及など

④脅威

現在の動向

- ・2026年のカーボンプライシング導入により、CO₂排出コスト増。企業は更なる対応が不可欠。
- ・国のカーボンニュートラル宣言により、環境配慮は企業イメージに直結する時代へ

未来予測：

- ・温暖化の進行による異常気象、気候変動等の様々な影響
- ・中期目標 2030年までにCO₂排出量▲50%達成状況によってはさらに厳しい環境規制の恐れ

①強み×③機会

- ・SDGsでの環境への取り組みは**欧米ユーザーへのサプライチェーン**に組み込まれるには絶対的に必要な事。**国際認証**を求められる。（繊維）
- ・**環境配慮の取り組みは海外戦略には必要不可欠**である。（繊維）

②弱み×③機会

- ・**素形材産業では、原材料や副資材がほぼ県外調達か海外調達**となっているが、**発生した資源（鉄屑など）は、県外又は海外へ売っている**。輸送でのCo₂排出やコスト(運賃)を考えると、**近県で循環が出来る仕組みが欲しい**。（機械）
⇒同感です。高炉でのスクラップ使用量増加もあり**素形材企業はスクラップの調達に苦戦**していると伺っています。産廃同様エビデンスなどの仕組みをつくり、排出企業への地方税の減税などを通じて低炭素輸送と県内素材メーカーが材料を入手しやすい環境整備が必要だと考えます。（機械）
- ・**糸くず、生地の端切れ、生地のC反などを、破碎してエステルスパン糸を製造**してみたい。防災のタオルなどから要望あり。**設備、運営に補助金**が必要。再利用できない化繊は廃プラスチックとして処分するが、**焼却発電プラントを県で設立運営して欲しい**（繊維）
- ・製造時に出る廃プラスチックのうち複合材を**マテリアルリサイクル**できる施設が県内にあると有難い（機械）
- ・輸送のコスト、輸送時のCO₂排出量を減らすために**加工地に近い場所に産地形成**する。能登地区には耕作放棄地があるのでさつまいもを栽培してもらえれば弊社で加工できる。行政にはさつまいも産地形成に力を貸してほしい。（食品）
- ・空調機器の使用電力量削減に向け**工場の断熱工事などにかかる費用への助成制度**を拡充して頂きたい。（機械）
- ・県内のほとんどの経営者が**グリーンに対して関心が低い**。排出権取引などが一般化する前くらいのタイミングで**経営者向けに強い認知活動**が必要。あるいはそれに備えて**CO₂排出量の見える化に対する助成**を今のうちから実施（機械）
- ・**カーボンニュートラルに繋がる設備投資に対する補助金**（断熱工事、井水や地熱（ヒートポンプ）等の再生可能エネルギーを活用した空調設備等）とその**事例紹介**（機械）
- ・CO₂排出量の見える化など**グリーン関連の経営者向けセミナー**を実施してほしい（機械）

①強み×④脅威

- ・グリーン化への費用は**認証取得**やその**ランニング費用、再生可能エネルギー設備の設置など高額な費用**が掛かり、その助成が大きければ導入により積極的になれる（繊維）
- ・大きな省エネを実現するためには、**古い建屋や生産ラインの更新など大きな設備投資が必要不可欠**であるため、省エネ投資に対する助成制度の拡充をお願いしたい。（機械）

②弱み×④脅威

- ・能登地区にはさつまいも保管庫がない。あれば契約栽培+弊社で加工が現実化できる。近年、北海道でのさつまいも栽培が始まっており、北海道産がメジャーになる前に能登産さつまいもの市場での地位を獲得する。行政には保管基地の建設の補助をいただきたい。（食品）
- ・**GSR及びOEKO-TEX取得に多額費用**が掛かる（繊維）
- ・食品ロス削減のために**パートナーとなりうる企業が一貫**となっていると助かる。（食品）

何も策を講じない場合

- ・カーボンニュートラル実現に向けて、さらに厳しい環境への適合が求められ、対応できない企業は、生産コスト増や売上高の低下等により、競争力が維持できなくなる

10年後の想定

- ・環境を制約ではなく成長の機会として意識変革、ニーズを捉えた 新技術・新製品開発によって新たな需要を獲得
- ・環境負荷を軽減し、持続可能な産業構造へ

①強み

- ・高等教育機関が集積し、学生が多く、若い世代が集まりやすい土地柄
- ・広域交通、自然・文化、子育て・教育環境など住環境の充実・移住先としての魅力

②弱み

- ・地元就職率の低下、大学生の過半が県外流出
- ・有効求人倍率の高止まり、慢性的な労働力不足
- ・新しい働き方（テレワーク、サテライトオフィス、副業・兼業等）の対応の遅れ

③機会

現在の動向：

- ・コロナ禍を機に、新しい働き方が注目（テレワーク、サテライトオフィス、副業・兼業等）
- ・地方移住への関心が増加

未来予測：

- ・デジタル技術を活用した場所や組織にとらわれない働き方が定着
- ・副業・兼業といった複数の仕事に就き、能力を切り売りする時代へ

④脅威

現在の動向

- ・過疎化や少子高齢化による、生産年齢人口の減少、外国人労働者離れにより、将来の人材確保に懸念
- ・DX、GXなど成長分野に関する専門人材の不足

未来予測：

- ・優秀な人材の流動化や海外流出のさらなる増加、雇用のミスマッチが深刻化
- ・専門人材の獲得競争が激化

①強み×③機会

- ・県内から輩出される**デジタル人材に石川に就業するインセンティブ**を与える（石川で就業しているデジタル人材に住民税の優遇制度を設ける等）（IT）
→賛成です。せっかく、**石川県で勉強した優秀な学生が県外に流れないような仕組みづくり**が必要だと思います。（機械）
- ・全国の学生向けに、**石川県で働くことの魅力についてプロモーション**する（IT）
- ・県内外の学生が**石川で就活した際の奨学金補助**を実施する（IT）
- ・**Uターン、Uターン人材は少しずつ増えている**様に感じる。この人材をどの様にものづくり産業へ引き込むか？（機械）
- ・繊維が好きな人や**興味を持つ人はたくさん**いる。**魅力ある業界**にしていく。またメディアなどで常に発信。事務作業や営業などは募集しても来てくれる。（繊維）
- ・地域中小企業が、専門人材や第一線級の人材を雇用することは、金銭的にも仕事内容的にも非常に難しいと感じている。都市圏の優秀人材との複業PJを行っているが、**知見が活用できたり、彼らのレベル感や視座に触れながら仕事**ができる。優秀で想いのあるメンバーとマッチングできれば、**地域中小が優秀な人材の力を活用して事業を輝かせる、新たな戦い方**ができると考えています。これまで事情があり地域に住まなくてはならなかった人材もリモートで都市の企業に就職できる時代。優秀な人材の力を使える方法として**副業人材の活用を推進すべし**と考える。（食品）

②弱み×③機会

- ・学生に企業を知ってもらう**体験講座**の開催、**部活動や夏休みのワークショップ**として開講できれば（機械）
- ・**小学生、中学生に地元の色んな企業を知ってもらう機会**があると有難い。企業を知ってもらう前に、「仕事って？？？」、「働く」って？？？というところから初めても良いかもしれない。（機械）
- ・**UIターンを前提とした奨学金制度**の創設（機械）
- ・介護施設の拡充と金銭的負担を石川県で働く人に限定し補助することで**県内で働く人の介護負担を軽減**させると共に介護に問題を抱える家庭（石川県に両親を残し他県で働く人や都市部のヤングケアラー）が移住しやすい制度づくり（機械）
- ・シルバー人材や障害者、フルタイムが不可な主婦等、**多種多様な人が働きやすい環境や制度の整備**を行ない、どのように活躍しているかを**企業間で情報共有**できればいいと思う。（機械）
- ・**外国人研修生**にとって過ごしやすい街づくり。**公共交通機関、公共施設の利用推進**など（機械）
- ・時代変化が速くなっており、**産と学のタイムギャップ**が大きくなってきている。**学の中で中長期での企業の問題課題解決の取り組みを単位化する仕組み**を実現する（IT）

①強み×④脅威

- ・石川で勉強した学生は石川で就職できるよう、**石川に拠点を持つ企業への就職を前提にした奨学金**を学生に出す。（IT）
- ・リモートワークの進展により**DX系職種の仕事は場所が関係なくなる**ため、学生が多かったとしても地元企業へ就職するかは分からない。実際、優秀な人たちは東京の大手企業に所属するという形も見ると（IT）
- ・**大手企業誘致により**、ただでさえ高い有効求人倍率の石川県において、当業界からの**人材流出が加速**している問題がある。（繊維）

②弱み×④脅威

- ・県内製造業全体の就職人気がない。単純労働が何かと勘違いしているのではないか。イメージが悪い。**知的でかつ働きやすい産業であることなど、業界全体でのPR強化が必要**ではないか。また人材派遣業者など全国区の間業業者に大変押し回されてしまっていて少ない。製造業志望人材の圏外流出が止まらない（機械）
- ・最近の優秀な人材流出が顕著。人材紹介会社が活発化。**繊維業界のイメージや将来性の悪さ**で人気が無い業界となっている傾向がある。製造現場に入社してくれる人が募集しても来ない。**外国人研修制度は長く続かない可能性も視野**に入れている。（繊維）
- ・Uターン希望者や現在働いていない人は、免許が無かったり運転しながらいない人が多いので、**公共交通機関の拡充**が今後の労働人口を増やすためには重要になる（機械）
- ・女性のライフスタイルの変化（子育て期など）に柔軟に対応しつつ魅力的な業務を提案し続けられる企業が少なく、あってもそれを**アピールできる場が少ない**（食品）
- ・安い労働力としてだけでなく、**エンジニアや管理者候補として、外国人人材を採用することも検討**が必要。（日本人と同じ条件で）（機械）

何も策を講じない場合

- ・賃金格差、為替変動等により、外国人労働者の確保が困難
- ・都市部等への人材流出により、人手不足がさらに深刻化
- ・人口減少、高齢化等によって、職人や小規模事業者が減少

10年後の想定

- ・学生・Uターン人材が石川を第2の故郷として、就職先に選ぶ
- ・デジタル技術の利用や、副業・兼業等の制約がなくなり、働く場や組織に左右されず、キャリアやライフスタイルに応じた働き方が定着

①強み

- ・製造業を中心に技術開発ニーズが高い、
- ・産学官金の連携体制（支援機関・ファンドなど）
- ・豊富な地域資源

②弱み

- ・産学連携の個社の取組はあるが、全体では意識が低い
- ・都市圏に比べると高度専門人材の確保が困難

③機会

現在の動向：

- ・大学ファンドによる大学の研究・オープンイノベーションが活発化、研究開発への国支援の充実

未来予測：

- ・デジタル、グリーン分野の成長に向けた投資が拡大

④脅威

現在の動向

- ・顧客ニーズの多様化、技術革新等による、研究から社会実装までの短期化
- ・成長産業にかかわる人材が都市部へ流出

未来予測：

- ・海外・国内でのイノベーション競争の激化

①強み×③機会

- ・地域の強みを生かした**強化すべき技術開発を明確**にしてもらいたい（機械）
- ・**自動化及び省人化**は機器選定だけでなくレイアウト/物流動線など**様々な知見や経験が必要**なので**ワンストップでノウハウを蓄積できる研究機関**を立ち上げて欲しい。その中での**困りごとを県内企業や有識者が共同で解決**していくことで大きなビジネスチャンスが生まれる可能性があるのではないか（機械）
- ・**地場大学と地場企業の共同研究に対する助成**（機械）
- ・県内におけるITの語意がハード系に偏っており、リスクも飲み込んで**ソフトウェアの新規事業創出、機能更改に対する減税や助成金等の支援を強化**する（IT）
- ・研究の範囲を研究開発（ハードウェア・ソフトウェア）だけではなく、**実証実験やマーケティング調査なども補助対象**としてもよいのでは？（IT）
- ・金属、樹脂、電気の専門家と基本的な機械が一式置いてあるなんでも**試作開発できるようなラボ**みたいなものが大学とか工業試験場にあつたらいいなあ（機械）
- ・**北陸3県の工業試験場の施設や機器を相互に利活用できる環境**を構築してほしい（機械）

②弱み×③機会

- ・**産学連携のプログラムを拡充**して貰いたい（機械）

①強み×④脅威

・

②弱み×④脅威

- ・飲食店営業許可を取得した試作場所などの**レンタルスペース**が欲しい。（食品）

何も策を講じない場合

- ・顧客ニーズへの対応や、自前主義・短期主義からの脱却の遅れにより、研究投資を事業化・企業収益につなげられず、産業全体の競争力が低下

10年後の想定

- ・県内の中堅企業が新技術・新製品開発によって成長軌道に乗り、地場産業を牽引、イノベーションの活性化により、県内産業が活性化

①強み

- ・人口当たりの高等教育機関数は全国トップ
- ・創業に特化した支援体制
- ・スタートアップビジネスプランコンテストの開催

②弱み

- ・開業率が低く、大学発スタートアップが少ない
- ・安定志向が強い

③機会

現在の動向：

- ・2022年「スタートアップ創出元年」として国の支援強化トレンド

未来予測：

- ・スタートアップ増加によるイノベーション創出

④脅威

現在の動向

- ・スタートアップに関わる人材の大都市圏への流出

未来予測：

- ・海外・国内でのイノベーション競争の激化

①強み×③機会

・

②弱み×③機会

- ・スタートアップが生まれやすいよう**特長的な誘致条件**を確立して頂きたい（機械）
- ・**大学発スタートアップ**を促進させるプログラムを作って頂きたい（機械）
- ・**県外のスタートアップ、ベンチャー企業を誘致**する。そのためにまず街の良さを体験してもらうために**2泊3日以上**の石川体験を企画、実施する（IT）
- ・**市場購買ニーズがある事業を事前に調査、募集し、スタートアップ希望者に結びつける仕組み**を作る（IT）
- ・スタートアップを成長させるために**資金的な支援に加え、機会（実証のフィールド）**も作って欲しい（IT）

①強み×④脅威

・

②弱み×④脅威

- ・高校生や中学生などが**起業に触れる機会**がもっとたくさんあればいいと思います。（食品）
- ・県内中小企業は良いビジネスチャンスに直面しているにも関わらず、どこも**細々と新規事業**をやっているのが現状である。（相対的に大企業やベンチャーよりも圧倒的に資金を集めにくい。）また、中小企業の既存経営者は高齢化し、新たな視点・見解が非常に弱く、なかなか新ビジネスを理解できず、若手を抑えがちで、経営資源も大きくはることがない。ここはひとつ、中小企業を対象にした**新事業スピンアウトベンチャーに対するインセンティブ**を高める制度はどうだろうか。例えば中小企業発であること、現経営者以外の方が社長をやること、それか形成者に年齢制限を付けるとか、などを条件に、既存の石川県でいま実施しているスタートアップコンテストと一緒にスピンアウトベンチャー部門を作ったりして、**できれば最終的に5000万円くらい集まるまで支援**があるといいと思うのだが。（機械）

何も策を講じない場合

- ・他県のスタートアップの成功により、従来のビジネスモデルが変革し、競争力での差が生まれる恐れ
- ・石川で起業した後に、東京に本拠地を移動して資金調達を行う企業がでてる
（**優秀なスタートアップの喪失**）（IT）
- ・VC投資額の90%が東京の企業という今の流れがより高くなる（IT）

10年後の想定

- ・スタートアップによる、オープンイノベーションが促進され、県内全体で研究開発が活発化
- ・**県内発スタートアップと県外発スタートアップの連携**事業が増加（IT）
- ・スタートアップを通して**VCなどの資金が石川へ流入**してくる（IT）

①強み

- ・ニッチトップ企業の多さ
- ・食・工芸などの歴史文化、自然などの地域資源が豊富

②弱み

- ・中小・小規模が多く、販路開拓を行う人材が少ない
- ・デジタル化の遅れ等もあり、EC参入が少ない

③機会

現在の動向：

- ・デジタル、グリーン分野のニーズが増加、
- ・R6春北陸新幹線県内全線開業による石川県への注目

未来予測：

- ・デジタルデータ活用によって、個々の価値観にカスタマイズされたマーケティングが広がる
- ・顧客ニーズが多様化する中で、地域資源、伝統技術などの希少性は強み、個性となる

④脅威

現在の動向

- ・災害、感染症等の不確実性、半導体不足による生産停滞
- ・原油原材料高、為替変動による価格転嫁が課題

未来予測：

- ・温暖化の進行などによる自然災害の激甚化・頻発化、未知の感染症流行など経営環境の厳しさが増す

①強み×③機会

- ・県内の更なる**観光業の発展と製造業（ものづくり企業）**が多い石川県の優位性をクロスミックスさせた**産業観光（OPEN FACTORY）**は今後大きな可能性がある。沢山の方々に**観光産業として来社**いただき、**企業ブランディングを推進**する。このOPENFACTORYに大きな助成を求める（繊維）
- ・**産業観光**を通じ企業ブランディングを行うことで**企業の優位性が総体的に高まる**ことは、限られた**優秀な若手人材の確保**にもつながる（繊維）
- ・**石川県の全産業の企業や商品、サービスを紹介するホームページ（？）**で、**石川県の持っている個性を（国内、海外、個人、企業にむけて）シンプルに発信**。まともないかもしれないですが、石川県の良さを知ってもらうことからビジネスに繋がればと思います。天気や文化、人なども紹介しても面白いかも。【人材】のところにも使えそうです。（機械）

②弱み×③機会

- ・より企業を知ってもらうための**企業見学MAP**の作成（機械）
- ・マッチングアプリのように、**求める企業の情報を細かく入力すると最適な石川県の企業をバツと簡単に検索できるアプリ**を作って欲しい。あと県内企業にはどのような条件で検索されているか見られるようにして欲しい。ちなみにマッチングアプリは使用した事はありません。（機械）

①強み×④脅威

- ・既存の顧客に対しては、自社の価値（技術力、高品質だけでなく、安定供給、短納期、緊急時の対応力、きめ細やかなサービスなど）を見つめ直し、**顧客と一体型のパートナー**となれるように交渉していく。（機械）
- ・オンリーワン、希少性は、事業の継続性（安定供給）の観点からは、リスクが高いと捉えられることもあるため、**BCP対策を強化**して、顧客企業にPRしていく。（機械）
- ・生き残り・勝ち残りをかけて志を一にする**企業集団を形成**すること、**県内のみならず産地が一体となって国内外に向かっていくこと**が過去、そして今後も求められている（繊維）

②弱み×④脅威

- ・2024年よりトラックドライバーに適用される時間外労働条件や長距離ドライバーの減少など**県外への輸送が今後課題**となる。既に日通など敦賀で行っているように**金沢港からも九州への定期航路を構築**していただきたい。（機械）
- ・展示会など活発に行なっていたが、**毎年同じ企業様が参加**されるため新しい開拓につながりにくいように感じる。（食品）

何も策を講じない場合

- ・国内市場の中で埋没し、より付加価値の高い他県産の商品・サービスが県外から移入

10年後の想定

- ・国内での、県内企業の製品の良さが認識され、石川ブランドとして市場が拡大
- ・デジタルマーケティングが拡大

①強み

- ・食文化・伝統工芸など外国受けする地域資源が豊富
- ・建設機械、織機、輸送機械などの機械産業が集積

②弱み

- ・中小・小規模が多く、グローバルで販路開拓する専門人材が不足
- ・デジタル化の遅れ等もあり、越境でのEC参入が少ない

③機会

現在の動向：

- ・新興国等での新需要層の出現
- ・アフターコロナに伴うインバウンドの入込増・消費拡大

未来予測：

- ・デジタルデータ活用によって、個々の価値観にカスタマイズされたマーケティングが広がる
- ・顧客ニーズが多様化する中で、地域資源、伝統技術などの希少性は強み、個性となる

④脅威

現在の動向：

- ・災害、感染症等の不確実性、半導体不足による生産停滞
- ・国際的な環境基準の厳格化、新興国の台頭による競争激化

未来予測：

- ・温暖化の進行などによる自然災害の激甚化・頻発化、未知の感染症流行など経営環境の厳しさが増す

①強み×③機会

- ・品質が良質であること。生産効率がよく、人件費もアジア全体でも高くないこと（繊維）
- ・円安による輸出の商売の要望が増えている、コンテナ輸送の単価は国内輸送の1/2～1/3と割安（繊維）
- ・JAPANQUALITYの優位性。オリジナル素材提案（繊維）

②弱み×③機会

- ・電気料金の上昇1.5倍（繊維）
- ・円安による原材料の高等2年前の2～3倍、優秀な人材不足、国内輸送の運送費上昇1.5倍、梱包資材等の値上げ、海外との商売なので、これらの価格転化ができない（繊維）
- ・欧州、北米に対する共同営業機会の提供。（機械）
- ・納期（繊維）

①強み×④脅威

- ・マシン台あたりの生産が、2倍～5倍できる（繊維）
- ・人材不足（ワーカー）（繊維）
- ・国内顧客に鍛えられた高い品質と生産性に加え、円安を追い風に、海外への販路開拓に力を入れていきたい。海外展示会の出展費用やFS（現地調査）に対する助成があると助かります。（機械）

②弱み×④脅威

- ・製品の部分工程の仕事なので、もらい仕事で有る事（繊維）
- ・輸出先の添加物規制など、具体的な商品について聞ける場所がない。当社の商品の場合、といったピンポイントな質問に答えていただける場所が欲しい。国ごとにどういものが適しているかなどのアドバイスが欲しい。自社単体では配送コストが膨らむためコンテナ単位で輸出している企業等と知り合いたい。（食品）

何も策を講じない場合

- ・国際基準、規制の強化や、物価・為替変動、紛争・感染症 など不確実性の影響で撤退・縮小を余儀なくされる

10年後の想定

- ・海外ネットワークが拡大し、県産品の輸出額拡大
- ・デジタルマーケティングが拡大

①強み

- ・専門家派遣、支援機関の機能強化など事業者に対するきめ細かな伴走支援が高い評価
- ・全国で初めて、中小企業庁等との「伴走支援」に関する連携協定の締結

②弱み

- ・経営者平均年齢、後継者不在率は全国平均を下回るが年々上昇、相談件数も年々増加するなど事業承継は大きなテーマ
- ・今後、コロナ禍の特別融資の返済が本格化

③機会

- 現在の動向：**
- ・中小企業の円滑な事業承継の後押し、M&Aの支援環境整備などの国支援の充実

未来予測：

- ・M&Aなどによる集約化が進み、多角的業態が増加

④脅威

- 現在の動向：**
- ・経営者の平均年齢の高まり
 - ・廃業等によるサプライチェーンへの影響を懸念される状況
- 未来予測：**
- ・生産年齢人口及び年少人口の減少、老年人口の増加
 - ・総じて国内総人口の減少が顕著となり、さらに厳しい状況

①強み×③機会

- ・観察と行動ができています。モノづくりの経験、ノウハウが豊富に有る。**生産効率に特化した工場**(繊維)
- ・**事業承継者がいない経営者と事業経営に興味のある個人**(例えば、大手企業のOBなど) **とを結び仕組みがあると良い**ですね。(そんな取組があったかとも思いますが) (機械)
- ・**スピンアウトベンチャーの優遇措置、後継者に対して別法人格を用意して好き勝手に近隣業態で経営してもらい経験を積ませて事業継承に備える。**(機械)
- ・家業を次世代が継ぎたいと思えるような魅力的なものにすること。「損得だけで考えたら、絶対に事業承継しないよな」と日々感じている。収入や働きやすさでいったらもっといい道はいくらでもある。その中であえて事業を承継しようとするのは、世の中や地域、お客様、関わる方々に対する「志」や「想い」、そして難題に挑める「面白さ」でしかないと感じている。多くの事業、特に私達のような伝統的な産業は変化しなければ衰退していく状況にある。行政には、**事業を引き継ぎつつ、変化を起こして新たな価値を生み出そうとする後継者や若手経営者の後押しをする施策**をお願いしたい。
例えば、「**デザイナーを絡めたリブランディング**」に関する支援等があればありがたい。引き継いだ事業を用いてこれからの世の中にどんな価値を提供していくか。次世代経営者の内面を掘り下げながら形作り、デザインとして落とし込んでいく。そのプロセスを経て各自の事業が輝けば、地域はより面白くなると感じている。(食品)

②弱み×③機会

- ・**人材の確保ができない**。部分工程の仕事なので、補助金がおりにくい(繊維)

①強み×④脅威

- ・オンリーワンのモノづくりができていますが、それを理解できる人材が少ない。**教育はしているが理解してもらえない**。(繊維)

②弱み×④脅威

- ・観察と行動をできる人材が少ない(繊維)
- ・零細企業が多い協力企業の経営者の**高齢化、後継者難による廃業**が心配される。廃業が決まると、必然的に社内に仕事を取り込む必要が出て来ている。このような場合、**(M&Aではなく)、設備や人の引継ぎなどに対して助成**があると良い。(機械)
⇒確かに、**M&Aではなく、設備や人の引継ぎ等に対する助成**があると良いと思います。(機械)
- ・M&Aなどが進み、企業がどんどん集約されていくと、**個性が薄れてしまう**気がする。(機械)

何も策を講じない場合

- ・後継者不足、コロナ禍の経営悪化、返済難による廃業が増加し、サプライチェーンの維持が困難、地域での生活が途端に立ち行かなくなり、人口減少や地域社会の活力が失われる

10年後の想定

- ・事業承継、M&Aなどで適切な統廃合が進み、新陳代謝による事業の活性化や、企業存続によるサプライチェーンの維持・発展し、地域の活力が維持される

①強み

- ・交通の利便性の良さ、自然災害リスクの低さなど立地の優位性

②弱み

- ・人口減少、生産年齢人口の有効求人倍率の高止まりで地域・業種間での人材偏在
- ・進出や増設にあたっての産業用地の不足

③機会

- 現在の動向：**
- ・コロナ禍によりサプライチェーンの脆弱性が顕在化し、生産拠点の見直し（再構築）の動き
 - ・コロナ禍やデジタル化により、地方進出の関心が高まる
- 未来予測：**
- ・グローバルリスクを踏まえた国内回帰、サプライチェーンの再構築が本格化

④脅威

- 現在の動向：**
- ・人手不足による人材確保難やデジタル化や脱炭素化による産業構造の変化
- 未来予測：**
- ・世界中で高齢化・労働力不足が進展し、世界的な人材獲得競争が激化

①強み×③機会

- ・大手企業はリモートワークが進み働く場所の自由度が高まるため、石川のような大学との連携ができて技術人材の確保に適した場所に地方拠点を持つことのメリットを感じる。立地の優位性を活かして**大手企業にフォーカスした企業誘致の補助制度を他県を圧倒するレベルで拡充**する（石川に拠点を置こうと全国に認知されるレベル）。大手企業の拠点が設けられれば社内での異動で技術者が流入し税金が増え、社会インフラのレベル向上ができる。そして更に魅力が高まり企業誘致が進む。今後10年の戦略として考えるならば10年後にどのような状態を目指すのか。そこからバックキャストिंगして変革につなげるとなれば力強い重点施策が必要。**継続的に誘致して人材（特に技術人材）を引き込むことができるかがポイント**ではなからうか。（KPI：3年後までに20社1万世帯増など）
- ・**半導体、半導体製造装置企業の誘致**。あるいは**IT系企業の本社誘致**。クックパッドとかレティとか、文化×ITとかも面白いかもしれない。その人材が副業で県内のDX人材になっていくイメージ。（機械）

②弱み×③機会

- ・利便性の高い**金沢近辺に石川での本拠地**を持たせ、そこを足場に**加賀・能登方面にある産業用地へ工場やデータセンターなど広い拠点を誘致**する。何の足場もなく唐突に例えば能登に拠点を構える投資をするのは難易度が高い。能登に拠点を構えるなら金沢に拠点を設けるのに優遇策が受けられるなど企業が進出する際の課題を解決する施策が必要。**移り住む人を増やす必要がある**。（IT）
- ・企業規模が大きな企業など支店や営業所、本店などの移転などで入れる**オフィスビルが少ない**。金沢駅周辺でのスマートシティ構想など新しいアプローチで商業ビル、オフィスビル、マンションなどの建設など検討実施してはどうか？（IT）

①強み×④脅威

- ・**保稅区**に、工業団地を作り、海外からも誘致企業を募集して欲しい（繊維）
- ・農業や林業、水産業など**一次産業に競争力を持つ企業を誘致**することで県内産業の生産性と新たな品種開発を促進するとともに子供達、県外移住者にとって魅力ある地域になるのではないかと（機械）

②弱み×④脅威

- ・エネルギー価格の高騰に対する対応（IT）
- ・ただでさえ有効求人倍率が高い石川県に**大手企業は誘致してほしくない**。人材流出が進む可能性がある。一方、**シナジーがある企業には是非来てほしい**。（繊維）
- ・**労働集約型産業の誘致は、中小企業にとっては更なる人材採用難**となる可能性が高い。（機械）
- ・地元の川下企業への波及効果のある企業誘致は賛成ですが、そうでない場合、**人材不足が加速するだけ**の企業誘致に地元企業にはありえないような補助金を投入するのは疑問が残ります。（機械）

何も策を講じない場合

- ・人手不足の不安などの要因から、より条件のいい県外への移転などが発生し空洞化が生じる
- ・新たに進出する先端企業に、地域の人材が流動する
- ・電気代価格の高騰からの景気悪化（IT）
- ・今まで通り年に数件の企業誘致があるが特に大きな変化はない。（IT）

10年後の想定

- ・本社機能移転、サテライトオフィスの進出をはじめ、様々な企業が石川に移転、誘致企業と地場産業との間で新たなビジネスが生まれ、産業全体が高度化、多様化する

①強み×③機会

②弱み×③機会

①強み×④脅威

②弱み×④脅威

・調達。材料費の高騰により県内企業は大変苦しんでいる。このトレンドはじわじわと長期に悪化し、慢性化していくだろう。
 特に何か国際的な紛争などをきっかけにして短期的に大きく価格が跳ね上がってとても苦しんでしばらくたったら落ち着いて、を頻繁に繰り返していきそう、その頻度が長期的に上がっていく、その度に県内企業は苦しむ事が想定される。
 県内製造業は少量多品種が多く、**少量品に対して材料費値上がり分の価格転嫁をいちいち交渉していくのは大変難しい。エネルギーもしくは材料費が短期・急激に上がった時に何か救済策があったら救われる企業が多いただろう、それか、もしくは業界団体などで基本・普遍的な資材・材料に限り共同購買や交渉するなどの仕組みを作ると良いのではないだろうか。特に鉄鋼 1 次メーカー・1 次鉄鋼商社に対して県内企業が共同購買するイメージだ。**(機械)